



8月の園だより

令和8年8月1日

目黒区立祐天寺保育園園長

～試して考えて探求する夏～

毎日の猛暑に時々曇り空の日があると、登園した子どもたちから「今日はプールどうするの、入れる？」と質問が飛び交い、開放感たっぷりの遊びに期待して登園していることを感じています。

先日、子どもたちがこの夏、夢中になっている虫の一つで3歳児のオスと5歳児のメスカブトムシの結婚式をしました。幼虫から育ててきたのでそれぞれの思い入れは深く、5歳児は朝のサークルタイムで「新しいきれいな家を用意しよう」と当日を迎えました。「メスはくるまちゃんとぴっぴちゃん、オスはもぐら君とゼリー君です」とそれぞれのペアで新しい家に入りました。ある日、5歳児から「りす組がカブトムシを触り過ぎちゃっているみたい。もう一回話したい」と声があがり世話の方法を話に行きました。翌日から気を付けて世話するのですが「カブトムシにたくさん触れたい」という気持ちは溢れているので「そうだカブトムシを作ろう!」と折り紙で作ったカブトムシや枝、ゼリーを別のケースに入れて同じように大切に育てることになりました。「優しくお世話しようね」という5歳児との約束も守りつつ手作りのカブトムシも本物同様に大切な仲間になっています。「生き物の飼育」を通して子どもたちは友達の考えに気づき「なんで、どうして、こうしてみよう」と探求を続けています。「見つけて捕まえたら終わり」ではない生き物の成長を通して豊かに探求できる夏の遊びを楽しんでいきたいと思います。



<行事予定>

・避難訓練・身体計測

お店屋さんとお客さん（うさぎ組4歳児）

ラーメン屋さんがしたいという声から、紙に絵をかいて看板を作り「らーめんやさん」をオープンしました。はじめは保育士と人形がお客さんでしたが、次第に「どこに座ればいいですか」「いれてー」と友達が遊びに加わりました。お客さん役の子どもの中でも「僕はお父さんね」「お母さんやる」「先生は子ども役ね」「赤ちゃんも食べさせてくれる？」など、役割分担が自然と確認されていき、役になりきって遊びが進んでいきます。「どれをたのもうか」「すみませーん」と次々に注文が入り、今度はお店屋さん役の子どもが「いっぺんに言わないでください。ひとりずつお願いします」と対応しています。お客さん役の子どもも「そうですね、すみませんでしたー」と返し、本当のお店のようなやり取りも見られました。お店屋さんが大変そうにしていると、手伝いに来てくれる子どももいて「ハイ注文の〇〇で一す」と運んでくれる一幕もありました。これからも何かになりきって想像力を膨らませながら一緒に楽しんでいきます。





0・1・2歳児クラスの水遊びの様子



ちゅうりっぷ組（0歳児）

《水って面白い》

子どもたちにとって初めての水遊びです。タライに張った水に手を入れると、冷たさに驚き慌てて手を出しています。「冷たいね」と声をかけるともう一度水の中に手を入れてみえています。水の心地よさを少しずつ感じ始めると、次第に遊び方もダイナミックになり、バシャバシャと水面を叩き全身で水の冷たさや気持ちよさを楽しんでいます。中には、腕を伝って水が流れていく様子をじっくり眺めたり、水を握ってみようと水の中で何度もグーパーと手を動かしてみたりして試してみている子もいます。

「つかめないね」「どこに（水が）行ったんだろう」と保育士が声をかけると不思議そうにしながら何度も試して楽しんでいました。

今後も一緒に遊んでいく中で、水の冷たさや気持ちよさ等、感じたことに共感しながら繰り返し楽しめるようにしていきます。



たんぽぽ組（1歳児）

《流れてくる水》

子どもたちは水が入ったタライに集まると、カップやひしゃくですくったりこぼしたりして楽しんでいます。足に水がかかると驚いた表情をしたり「つめたいね」「気持ちいいね」と保育士や友達と感じたことを言葉で伝えたりしています。水をすくうカップに興味を示した子がいて、初日は水に触るというよりはそのカップを持って眺めたりひっくり返したりして試していました。次の日は前日にカップで水がすくえることを保育士が見せていたこともあり、始めから水をすくってこぼす遊びを楽しんでいました。底に穴が開いているカップは水をすくうだけで下から流れてくると、はっとした表情をしながら“ここから水が出ているね”と穴の開いた底を指さして保育士に知らせています。そして水がなくなると「もーっかい（もう一回）」と人差し指を立てて保育士にリクエストし、一緒にタライから水をすくって再び流れてくる水を「おお」と眺めて楽しんでいました。

一人ひとりの“面白い”や“楽しい”に保育士が気づいて共感し、水の冷たさや感触など五感を使って心地よさを味わっていけるようにしていきます。



ひまわり組（2歳児）

《見て、触って、水って不思議》

容器を水で張ったタライに沈めて水を汲み、並べたコップに注いでジュースを作っています。「冷たいいちごジュースです。どうぞ」「ごくごく、美味しい」「おかわりもありますよ」と、保育士や友達とやりとりしながら水遊びを楽しんでいます。色々な道具を使って遊ぶ姿も増えてきて、形の異なる容器を重ねたり、じょうごやひしゃくなどを使って水を入れて移したり「お水がぐるぐるしているよ」「いっぱいになってきた」と水の動きや変化に気付いたことを言葉で表現したりしています。ビニール袋に水を入れて作った水風船を作ると、両手で揉んだり足で踏んだりしながらじっくりと感触を味わったり、水風船をたらいに投げ入れて水しぶきがかかるのを楽しんだりして遊びの中で面白さを体験しながら様々なことを試しています。

水の感触や冷たさ、不思議さなど子どもたちが感じたことや気が付いたことに共感しながら、夏ならではの遊びを楽しんでいきます。

